

# 12人に1人が発症 乳房と命を 守る乳がん検診

日本人女性に最も多い「がん」は乳がんです。毎年新たに乳がんが見つかる日本人女性は1975年1万人、85年2万人、95年3万人、2010年6万人と増え続け、2015年には約9万人になると予測されています。現在、12人に1人が乳がんになります。明治時代には乳がんは比較的まれな病気でした。乳がん発生には月経に関連して分泌される女性ホルモンが影響します。明治の女性は初潮が遅く、多産なうえに長期間授乳していたので生涯の月経回数は50回程度だったそうです。しかし、最近の日本人女性は発育向上のため初潮が早く、時代の流れで出産回数が減少しています。その結果、生涯の月経回数は500回を超え女性ホルモンにさらされる期間

が長くなったことが乳がん増加の大きな要因といわれています。亡くなる方も増え続けている乳がんですが、早期発見されれば身体に負担の少ない治療を受けられ、ほとんどの場合命を失いません。そして、早期乳がん発見の唯一の手段が「乳がん検診」です。早期乳がんとは大きさが2cm以下のしこりをさすことが多いのですが、じつは乳がんが2cmになるまでには7〜8年以上の長い年月がかかっています。大きさが2cm以下で見つかった早期乳がんは、当然1mmとか2mmの大きさの時もあつたわけですが、極めて小さな段階の乳がんの多くはマンモグラフィや超音波検査を行っても写りません。つまり「乳がん検診結果が異常なし」というこ

## 乳がん検診

小笠原クリニック札幌病院附属外来プラザ

綿密な乳がん検診で早期発見。乳腺専門医が身体にやさしい治療を実践



真駒内公園が眼前にあり、目印ともなる

の結果、2年ごとのマンモグラフィ検診は40歳以上の女性の早期乳がん発見に有効で、乳がんによる死亡を減少させることがわかりました。乳がん検診を受けた方は「1度受けたら、しばらく大丈夫」と思わずに、2年ごとの検診を継続することが大切です。

乳がんから命を守るために世界中でさまざまな研究が行われています。マンモグラフィ検診は触診では絶対にわからないような小さな乳がんを発見します。日本の40歳代女性の場合、50歳以上の方に比べて豊富にある乳腺組織がじゃまをしてマンモグラフィに乳がんが写りにくいことがあります。このため、40歳代のマンモグラフィ検診に超音波検査を併用した場合の有効性を調べる研究が国内で進行中です。結論はまだできていませんが、超音波検査の追加することにより早期乳がん発見率がさらに高まり、死亡率が低下することが確認されれば、40歳代女性にはマンモグラフィと超音波を併用する検診が導入されることになるでしょう。



田口 和典氏

院長

北大医学部講師、北海道がんセンター乳癌外科科長、天使病院乳癌外科科長などを経て、2015年4月より現職。日本乳癌学会乳癌指導医・乳癌専門医、医学博士。

小笠原クリニック札幌病院附属  
外来プラザ

札幌市南区真駒内上町1丁目1-25  
グリーンプラザ真駒内公園ビル1~4階  
Tel.011-582-1200  
<http://www.ogawara-hp.or.jp/gairai/isshi.html>

とは、その時点でがんは見つからない（写らない）ということであり、今後しばらく乳がんが発生しないという保証ではないのです。早期乳がん発見のためには定期的な乳がん検診が必要で、それではどれくらいの間隔で乳がん検診を受ければよいのでしょうか？国内で行われた研究